

## 健康高齢者に対する認知訓練の現状と課題：訓練の転移

吉田 甫\* 立命館大学文学部  
古橋 啓介 福岡県立大学人間社会学部  
土田 宣明 立命館大学文学部

本論文では、高齢者に対する認知訓練に関する最近の研究を訓練されない機能への転移が生じるかどうかという視点を背景にしてレビューをおこなう。主に3つの節から構成されており、第1節では、エピソード記憶を主な対象とした認知訓練をレビューする。ここでは、伝統的なエピソード訓練、大規模な ACTIVE 研究、および社会的相互作用を取り込んだ認知訓練をレビューする。第2節では、作業記憶や実行機能などの訓練に関する最近の研究をレビューする。第3節では、認知機能だけでなく情動など多様相の機能を訓練した研究をレビューする。ここには、学習療法、演劇活動による介入、複雑なビデオゲームによる介入などの研究を紹介する。最後に、エピソード記憶の訓練や作業記憶の訓練は、訓練の対象となった機能を向上させることはできても、他の機能への転移はほとんど生じなかった。しかし、多様相の機能を訓練した研究では、さまざまな機能への転移が認められ、転移効果という点からは今後の認知訓練は多様相の機能の訓練という方向性が示唆された。

キーワード ⇒ 認知訓練, 作業記憶, エピソード記憶, 多様相の訓練, 転移効果